

三重県 紀北町

第十八甚昇丸

調査日:2016/10/29

船名:第十八甚昇丸(19トン型, まき網船を改造, 沖底, FRP, 乗組員6名)

船頭:石倉 實

機関:主機750ps, 補機250ps(油圧・発電用)

漁法:手繰第一種漁業(かけまわし)

漁具:かけまわし漁具

揚網方式:直巻

網構成:1山方式, 全長1800m

網構成

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
網種	CPR								
長さ(m)	200	200	200	200	200	200	200	200	200
分径(mm)	32	32	32	32	32	32	32	32	32
芯径(mm)	5.3	6.1	5.3	5.3	6.3	5.3	5.3	6.1	5.6
備考					山				

操業概要

紀北町長島港を5:45に出港し、6:38に漁場到着。一網目は潮の様子を観察(5分程)後の投樽となる。一網目水深は173m, 二網目は162m, 三網目は水深158mで操業した。主な漁獲物は、マダイ, アラ, カイワリ, マトウダイであった。

網次	水深	タル投	投網	タル取	曳網開始	巻上開始	回転上げ	巻上終了	揚網終了
1	173	6:43	6:52	7:01	7:06	7:21	無	7:52	8:08 *
2	162	8:32	8:41	8:51	8:55	9:19	無	9:51	10:04 *
3	158	10:21	10:31	10:40	10:47	11:04	無	11:36	11:49

*左右の手木を重ね合わせて網の途中までを右舷のウインチに巻き込んで揚網する。

*1回目と2回目はヘッドロープに取り付けたトロールカメラをスムーズに巻き込めなかったため、揚網にやや時間がかかっている。

操業方法

曳網方向は、基本的には浅い方から深い水深へ向けて曳く。潮によっては斜め曳きとする。

投樽から投網まで約9分、樽回収まで約19分、今回のように水深150m程度では、樽回収から曳網開始までの5分間程度は0.5ノット程の速度を維持する。(水深300m程度では5~6分待つ。)

その後、船速1.4~1.7ノットで約20分曳網し、巻き上げ開始。ウインチの巻き上げ回転数は18回転。巻き上げ中は船は後方に引かれ0.1~0.5ノットで後退となる。巻き上げ開始から巻き上げ終了まで約30分。

左舷の手木を右舷の手木に重ねて、以後のペンネット、袖、身網を右舷ウインチに巻き込む。袋網は右舷側から船首部に移動させ、胴の間横にて袋網を開く。

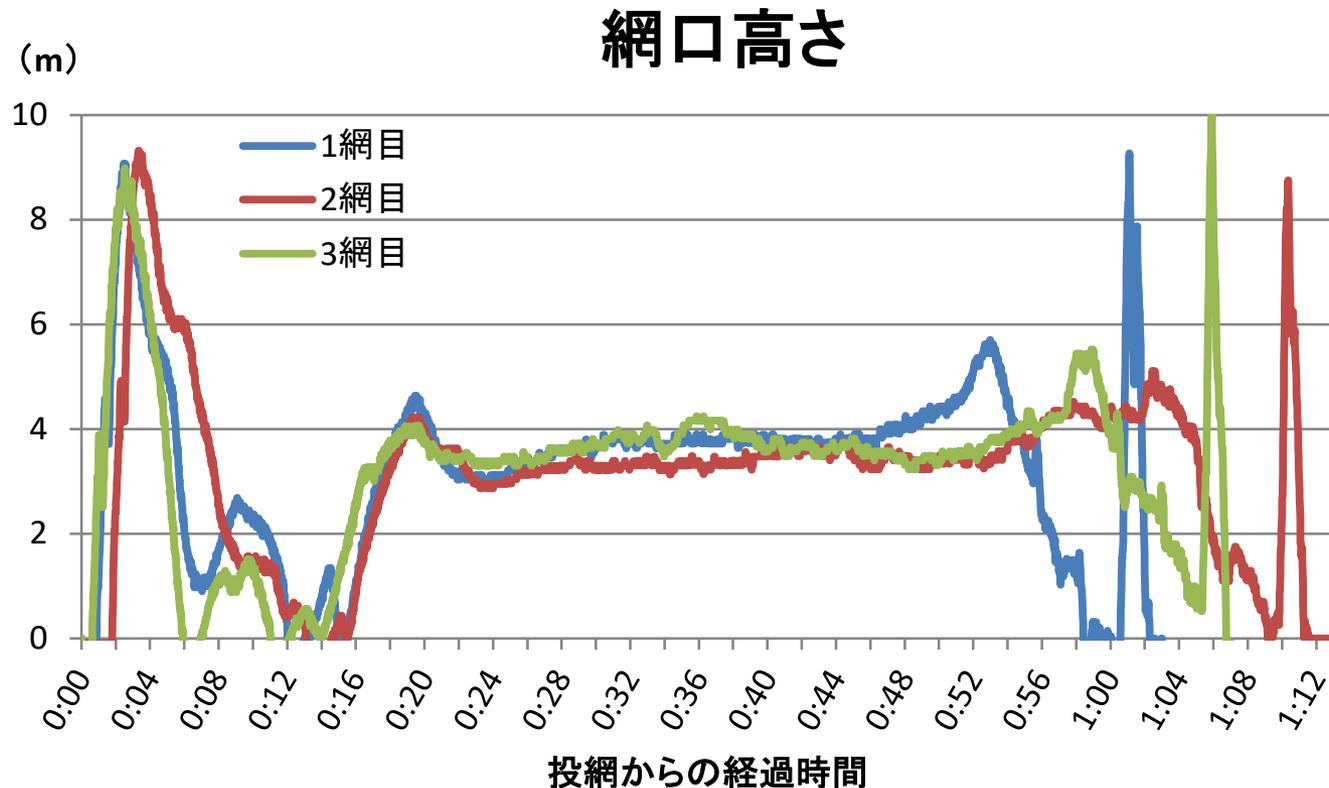
漁獲物はアームで吊るしたタモで胴の間に掬い上げる。

曳網は1山式で、図のような航跡をとる。

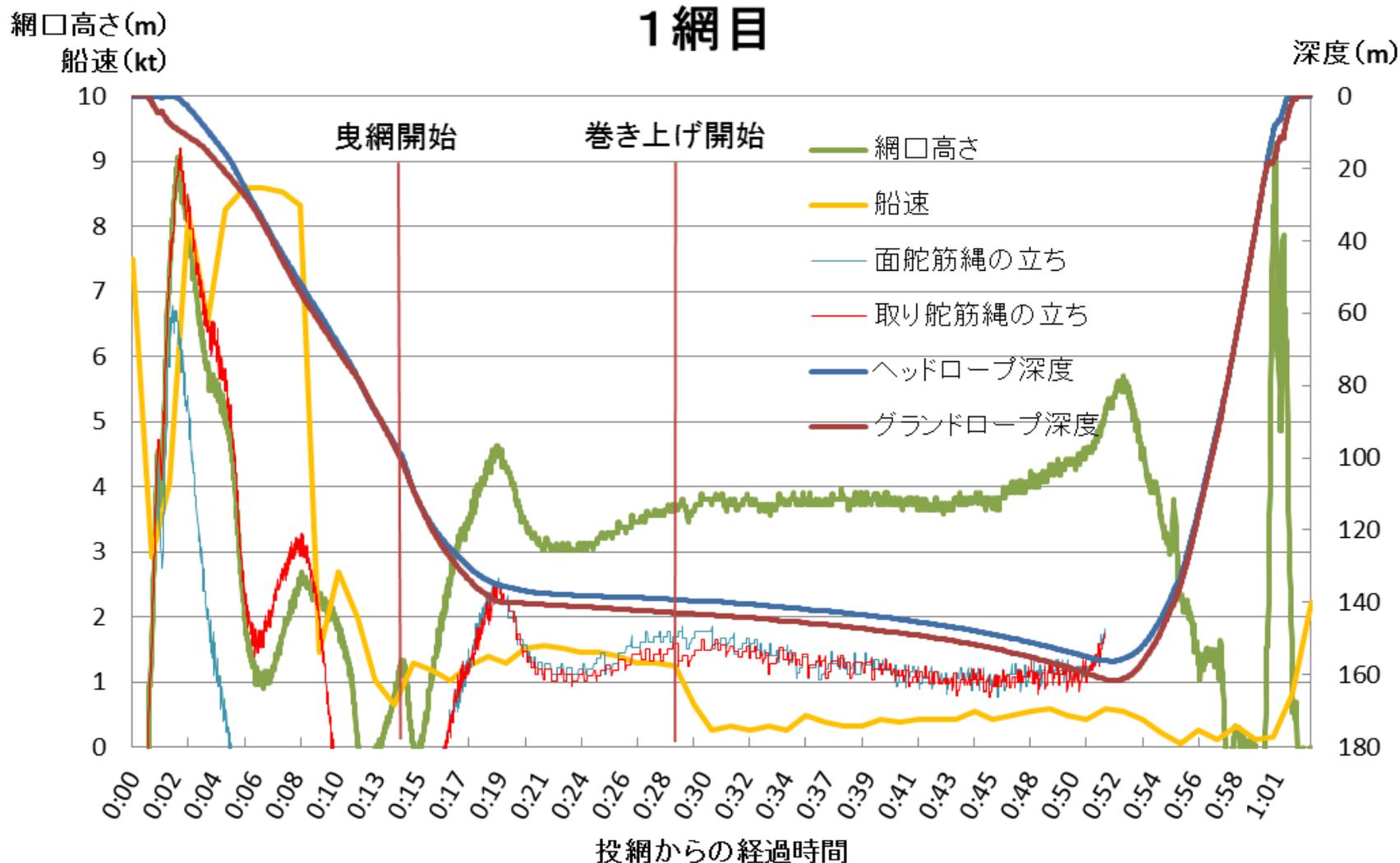


網口高さとグランドロープ深度

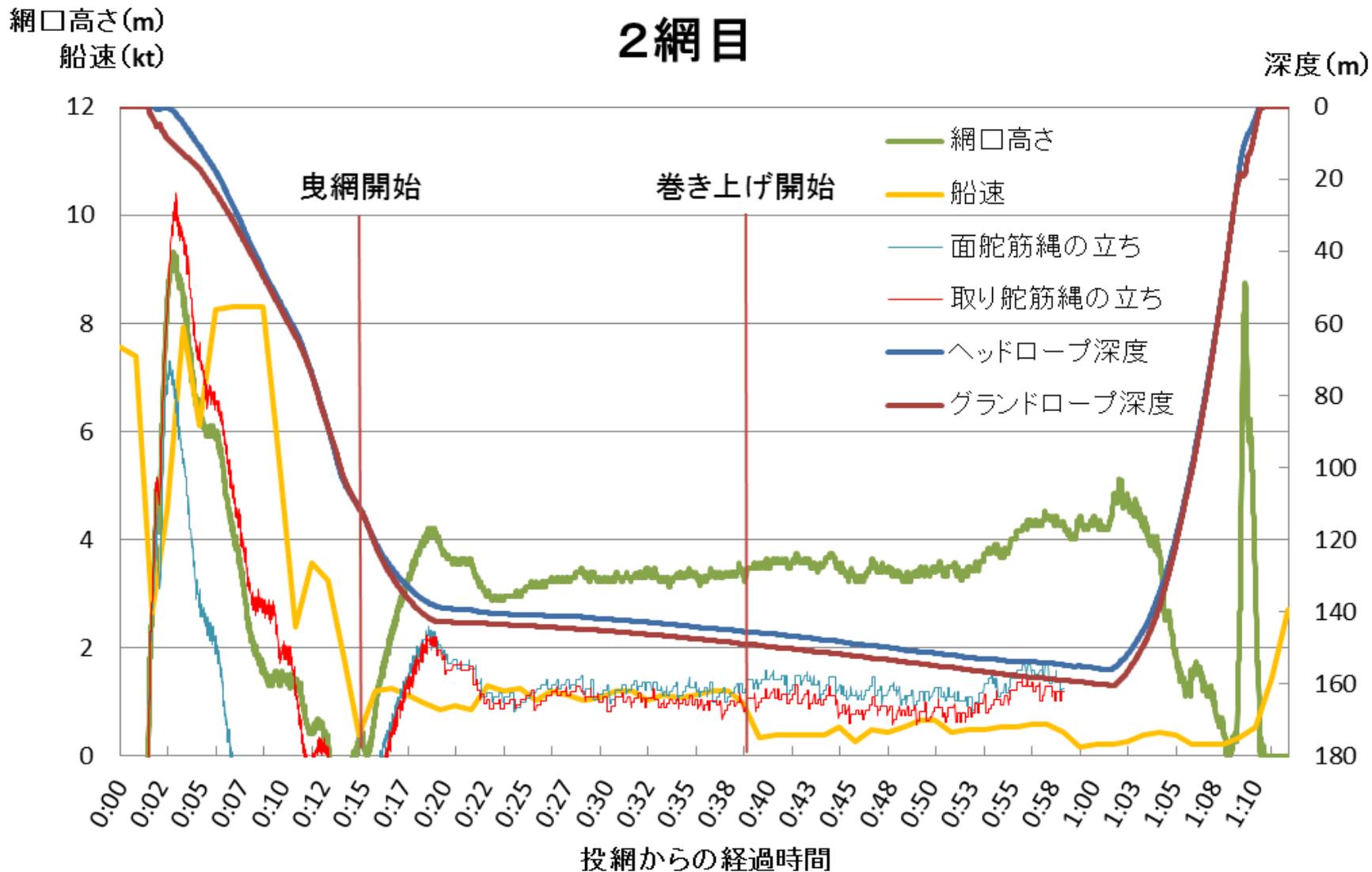
網口高さは4m前後であった。グランドロープが着底する4～5分前に曳網を開始しているが、ほぼ同時に網口の高さが急激に増加し始める。グランドロープの着底時に4m以上に達した網口の高さは一旦1m程度低下するが、その後徐々に増加し、グランドロープの離底時には5mを超えている。



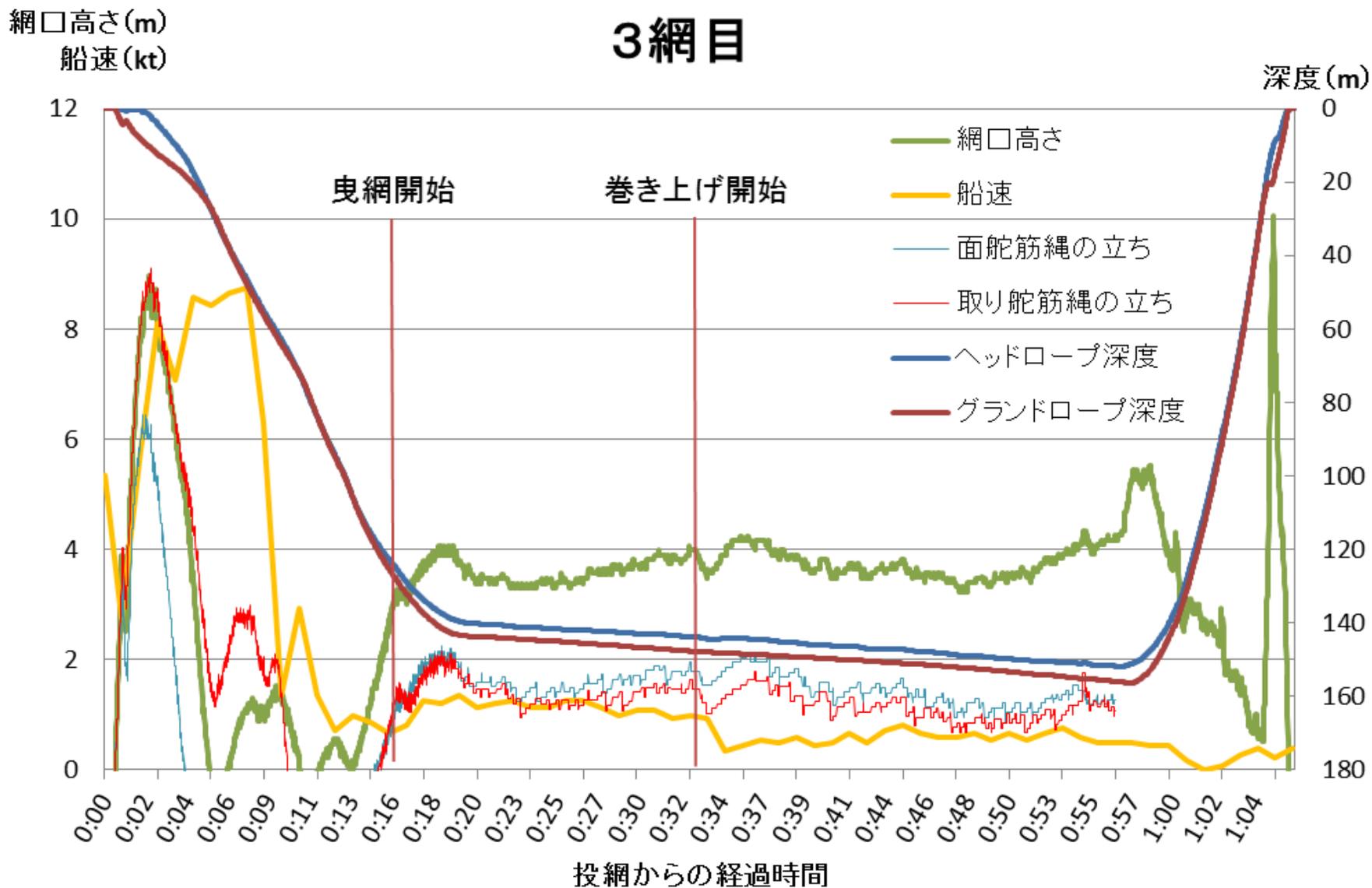
網口高さ, 船速, およびヘッドロープとグランドロープ深度



網口高さ, 船速, およびヘッドロープとグランドロープ深度



網口高さ, 船速, およびヘッドロープとグランドロープ深度



備考

- 燃油消費量: 450~500^{リットル}／日 (軽油: 69円/ℓ)
- 氷使用料: 一度に3t (3~4日分) 積み込む。¥ 10,000／t
- まき網船として建造された船を改造
- 網の交換頻度: 5年に一度全交換
- 現在は船頭を含め6名での操業 (船頭以外は20代)
- 上げ開始から終了までの間に回転数は上げない。
- 主要な漁獲物は年間を通してニギス・ヤリイカ・ガスエビ。ほかにアカザエビ・オキナマコなど。
- 調査時の漁獲物はマダイ・カイワリ・アラ・マトウダイ・ヨリトフグなど。
- 小型 (10cm未満) のワキヤハタ (現地地方名: しょうわだい) が大漁に入網することがあり, 売れないため廃棄しているが, なんとか利用できないかと思案中。



調査日の航跡



投網作業



揚網作業(袖を右舷側のドラムにまとめて身網まで巻き込む)



漁獲物の取り込みは、丁寧に救い上げる方式



主要魚種は冷水で初期冷却



活魚は迅速にエア抜きし、個別保管で安静に保つ